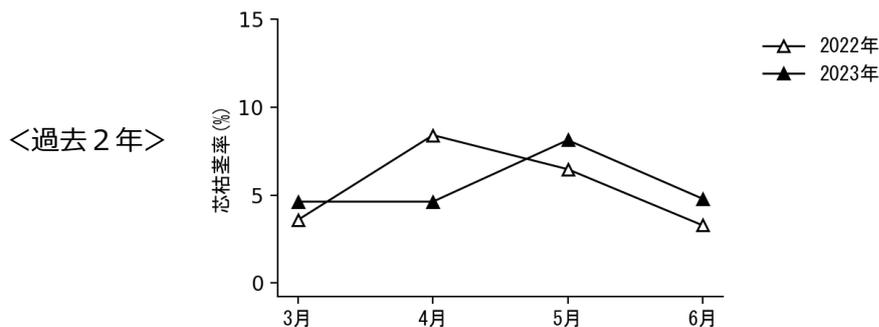
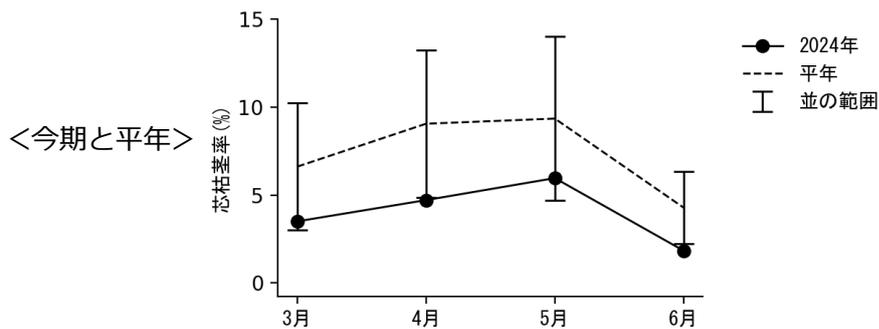


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	6 月からの増減傾向	—	
	7 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

芯枯茎率の推移(株出し)



・発生ほ場率91.7% (平年 : 88.5%)

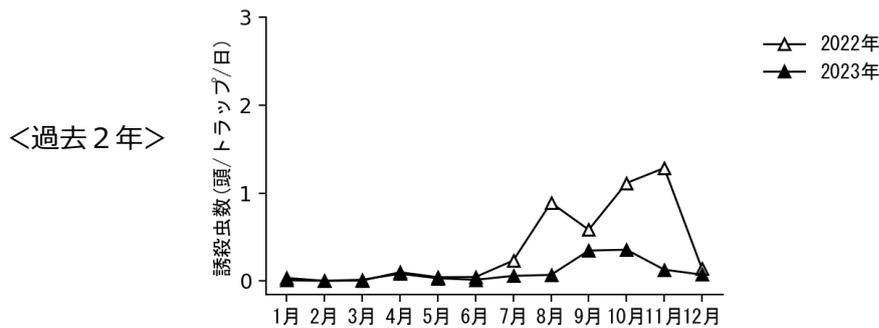
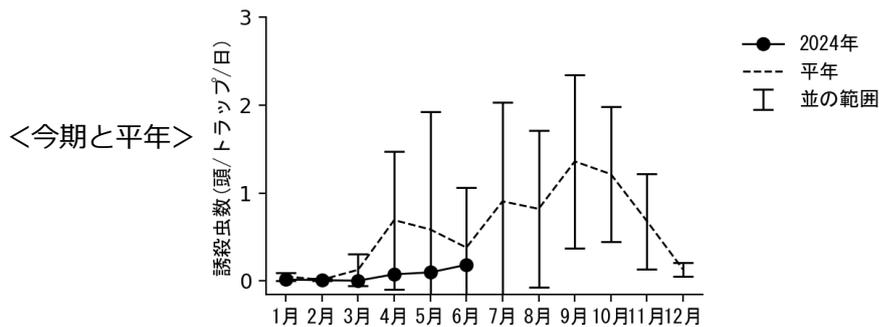
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 62.0%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

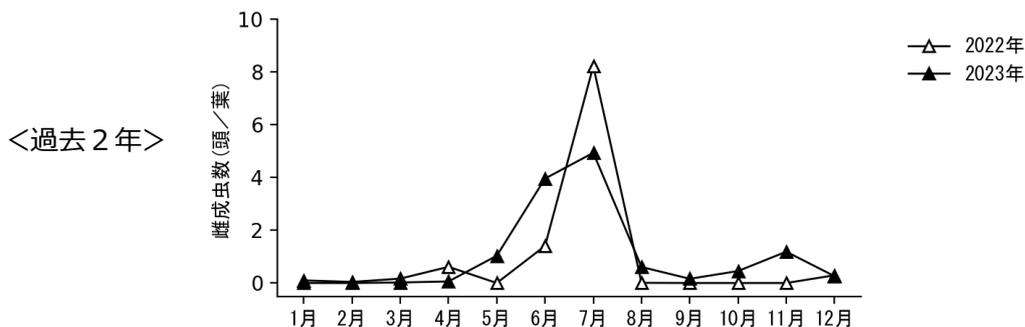
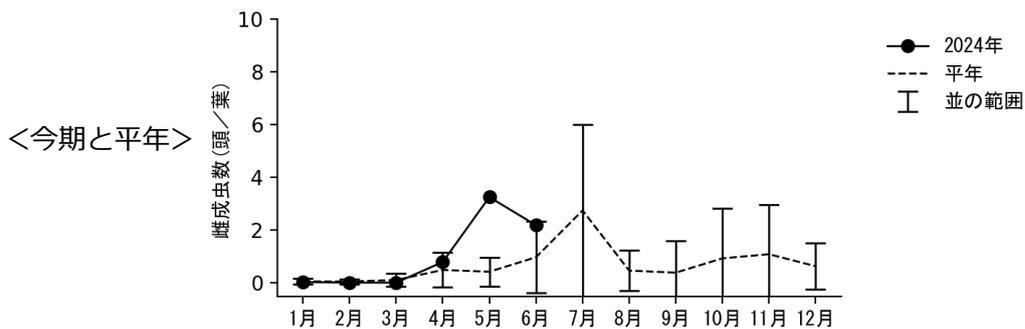


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報	6 月からの増減傾向	↗		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0% (平年：42.9%)

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

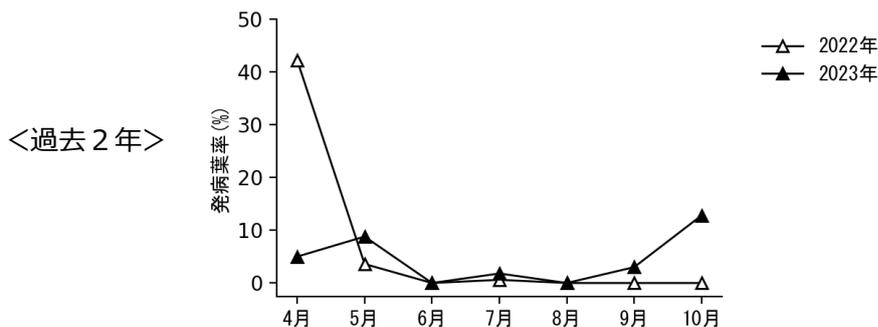
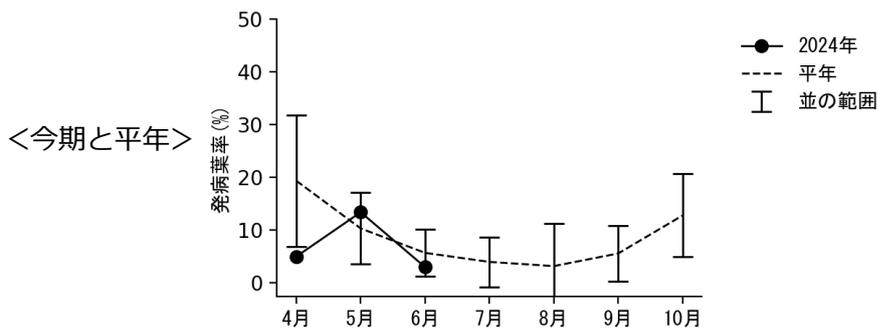


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	並	
予 報	6 月からの増減傾向	↓	
	7 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率60.0%（平年：60.7%）

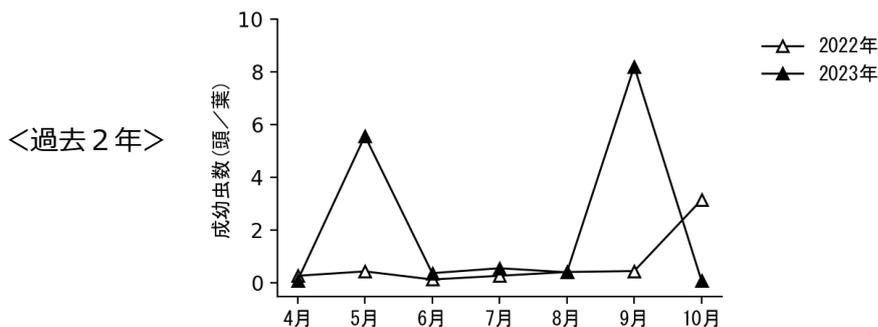
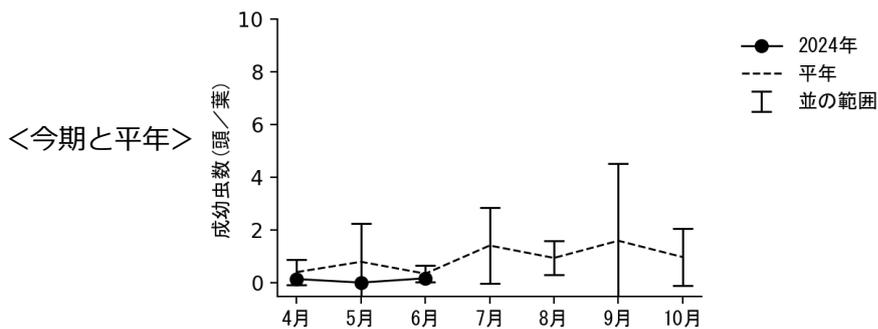
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ			 <p>成虫</p>
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報	6 月からの増減傾向	↗		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 64.3%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

